

## 1. はじめに

今回は、米国の国旗である『星条旗』にまつわる話をしたい。かつては、祝日によく見られた光景であったが、日本で最近、祝日に日の丸の旗を自宅に掲揚している家が非常に少なくなっている気がする。日本では、極右と極左の争いの中で、国旗掲揚習慣が時代の流れに埋没してしまった感があるが、米国では今でも、自宅や会社の入り口に星条旗を掲揚しているのをよく見かける。米国に1990年代に家族で駐在していたころ、自分の子どもが義務教育（米国では Kindergarten から Senior High School まで、日本でいうところの幼稚園年長から高校3年まで）年齢になったので、Kindergarten に入園したが、教室で国家と国旗に忠誠を誓う言葉を毎日読み上げるらしく、5歳の子供がしばらくすると完璧に暗誦できるまでになっていたことを今思い出す。

## 2. 忠誠の誓い～Pledge of Allegiance

“I pledge allegiance to the Flag of the United States of America, and to the Republic for which it stands, one Nation under God, indivisible, with liberty and justice for all.”

（訳：私は、アメリカ合衆国国旗と、それが象徴する、すべての国民のための自由と正義を備えた、神の下の分割すべからざる一国家である共和国に、忠誠を誓う。）

上記が、5歳の娘が暗誦した（させられた）言葉である。これを小さなうちから覚えさせ、米国民のナショナリズムをはぐくんでいるのである。ちなみに、5年で帰国した娘は当時完璧に暗誦していたが、今は、Japanese English で読むだけとなっているのが残念である。

## 3. 星条旗 The Star-spangled Banner (国旗と国歌)

米国の国歌として有名なThe Star-spangled Banner は、米英戦争中、1814年9月、バルティモア（メリーランド州）のマクヘンリー砦を、英国軍の一晩中の攻撃から守りきった時、翌日英軍艦から解放されたフランシス・スコット・キー氏（捕虜の解放交渉のため英軍艦にその日乗り込んでいた）がその光景に感銘して詠んだ詞とされる。激しい夜間の砲撃の後、9月14日の夜明けを迎えたキー氏らは、朝日の中で砦の上に星条旗（その当時は星15個、縞15本）がひるがえるのを目にした。

フーバー大統領時代の1931年に、この「星条旗」が米国国歌として正式に採用された。以下に全文を載せる。

“Oh, say can you see, by the dawn's early light, what so proudly we hailed at the twilight's last gleaming? Whose broad stripes and bright stars, through the perilous fight, o'er the ramparts we watched were so gallantly streaming? And the rockets' red glare, the bombs bursting in air gave proof through the night that our flag was still there. Oh, say does that star spangled banner yet wave, o'er the land of the free and the home of the brave!”

（訳：ほら、あなたにも見えるだろうか？ 夜明けのほんの薄明かり照らされて、薄明かり歓声の中で手にした我らの誇り高き功績を。幅広のストライプと共に輝く星々は、その死線を越える戦いの最中、我々が守る城の上で勇ましく己を誇示し続けていたではないか？ そしてロケット弾の赤い閃光と空気を震わせる炸裂した爆弾までもが、我らの旗がここに健在であるということを一晩中見せつけていた。ほら、その輝く星をたたえ、旗は今もたなびいているよ、ここは自由の大地の上、勇者たちの祖国であると示すように。（翻訳は、ティモシーさんのブログを参考）

この星条旗は、州が増えるたびに変わっており、以下に3例を示す。星条旗は何回も変わっており、現在のデザインは27代目といわれている。



左は1776年に英国から独立した時13州だったことを示す13の星と13の縞からできている。真ん中は、ケンタッキー州とバーモント州が加わり15州となった1795年から使用され、1959年にハワイ州が加わって50州となって右の旗が採用されたが、この旗が現在も使われている星条旗である。ちなみに、キー氏が見たのは、彼が解放された時使われていた真ん中の旗のはずである。

## 4. おわりに

米国では、店で星条旗や星条旗グッズが多く売られている。米国を訪れるたびに、愛国精神の象徴である国旗が、国歌とともに広く庶民の生活の中で定着している様をあちこちで見られ、それが自然なことと、時にうらやましく感じる。